

検査結果報告書

カナ		性別	年齢	受診者ID
御氏名		男性	67	
生年月日				

	受診日	受診コース	オプション検査
今回	平成 27年 8月 25日	PETプレミアムS 男性	
前回			

検査一覧

PET/CT脳	MRI/MRA脳		眼底/眼圧	視力/聴力
VSRAD 54歳以上対象	超音波 頸動脈		あたまの健康チェック	呼吸機能検査
PET/CT体幹	CT胸部 FatScan測定		MRI/MRA心臓	心電図
超音波 甲状腺	超音波 腹部		超音波 心臓	胸部レントゲン
上部消化管バリウム	上部消化管内視鏡		マンモグラフィ	超音波 乳房
	MRI 骨盤部		血液(一般項目)	血液(肝炎)
身体計測/血圧測定	脈波伝播速度		血液(脂質代謝)	血液(尿酸値)
便潜血検査	骨密度測定		血液(肝胆膵系)	血液(電解質)
尿一般 /尿沈渣	子宮頸がん検査		血液(炎症)	血液(心筋系)
	喀痰細胞診検査		血液(糖代謝)	胃がんリスク検査
		血液(腎臓系)	甲状腺機能検査	
		マーカー(男性基本)	抗加齢林検査	
		血清抗P53抗体	血液型(Rh)	

オプション追加項目			
-----------	--	--	--

注意事項

- ◆今回の検診の結果説明をご希望される場合は、受診日より3ヶ月以内にお受け頂くようお願い申し上げます。
- ◆この報告書の再発行は対応致しかねますのでご了承ください。
- ◆この報告書にはあなたの健康状態に関する情報が記載されています。お取り扱いには充分ご注意ください。

ID	氏名	性別	年齢	受診コース	オプション	受診日
		男	67	PETプレミアムS 男性		2015年8月25日

◆総合判定 / 総合所見

◆総合判定	E	判定医	零石 一也
-------	---	-----	-------

判定基準

A	異常なし	今回の検査の範囲では異常はありません。
B	支障なし	わずかな異常が見られますが、特に問題とはなりません。
C	経過観察	経過観察が必要です。1年後の検診で再チェックをしましょう。
D	要精密検査	精密検査が必要です。必ず専門の医療機関におかけください。
E	要治療	治療が必要です。すでに治療中であれば継続してください。

【がんに関する所見について】判定：A

PET/CT検査や各種画像検査にて悪性腫瘍を疑う所見は認められませんでした。
(参考)

胃がんリスク判定では、ペプシノゲン判定(陽性3+)、ピロリ菌抗体(陰性)であり、胃がんリスク判定はD群となります。除菌歴がありますので参考としてください。
胃内視鏡検査では慢性胃炎を認めました。定期的な観察を続けて下さい。

【脳疾患に関する所見について】判定：C

MRI検査にて、脳血管障害、脳腫瘍を疑う所見はありませんでした。MRAにて、脳動脈や頸動脈に動脈瘤や有意狭窄は認めませんでした。脳MRI、脳PET検査、認知度チェックテストにて認知症を疑う所見はありません。頸動脈超音波検査にて、頸動脈に内中膜複合体肥厚を認めました。動脈硬化の初期でみられる所見です。動脈硬化を進行させる因子(肥満、高血圧、脂質代謝異常、糖尿病、飲酒等)のコントロールを心がけましょう。

【心疾患に関する所見について】判定：E

心電図検査において心房細動を認めます。心房細動とは、不整脈の1つで心房の筋肉が細かく不規則に震えている状態をいいます。症状としては、動悸や胸部に不快感が起こります。また、心房内で血栓が形成されやすい病態で、脳梗塞のリスクが高くなります。既に治療中とのことです。引き続きかかりつけの医療機関にて治療を継続してください。

心臓超音波検査では、軽度の左房拡大を認めます。左房に血栓様エコーは指摘し得ませんでした。左室収縮能は良好に保たれておりますが、心房細動がありますので、少なくとも年1回の心臓超音波検査をご継続ください。心臓MRI検査にて心筋梗塞や冠動脈の有意狭窄も認めません。
NT-ProBNPは865と異常高値を示します。治療対象となる心不全の可能性のあるレベルの数値と言えます。

【生活習慣病に関する所見について】判定：A

異常はありませんでした。

【その他の所見について】判定：C

視力検査にて両側の裸眼視力が低めです。矯正視力に問題はありません。聴力検査にて両側高音難聴を認めます。日常生活に支障がある場合には、一度耳鼻咽喉科にご相談ください。
血液検査では、総蛋白(TP)、血清鉄(Fe)が低めです。バランスのとれた食事を心がけましょう。
尿潜血が陽性、尿沈渣検査において無晶性尿酸塩が検出されています。特に問題とはなりません。結石予防のため、飲水を多くとるよう心がけましょう。MRIにて認めた膀胱粘膜の肥厚についても、精密は必要ありません。経過観察でよろしいかと思われます。
骨密度検査において骨量減少を認めます。カルシウム、ビタミンD、ビタミンKなど、骨密度を増加させる栄養素を積極的に摂りましょう。
PET検査では、左上顎歯肉炎が疑われます。口腔内については歯周病の有無など歯科にてご相談ください。画像検査では、胆嚢ポリープ(最大3.9mm)を認めました。1cmまでは経過観察を推奨しています。1年以上一度超音波検査にて確認しましょう。甲状腺腫様結節、肝嚢胞、腎嚢胞は良性であり問題とはなりません。